

総合評価方式の評価

総合評価方式を評価する視点

総合評価方式は、価格のみの競争でなく技術力のある企業を評価し、より良い工事目的物を完成させることを目的としているので、入札段階と竣工段階で評価する。

入札段階の評価

【傾向】

▷ 試行件数は、合併建設事業の終了、総合評価方式適用要件の変更などにより昨年度同様の件数見込みであったが、国の補正予算等で実施件数は前年度より多少増加した。

▷ 平成25年度以降は、技術点1位または価格点1位が落札する割合は概ね65%以上が続いている。同様に技術・価格点共に1位である落札者の割合は4年連続40%程度で推移している。

【考察】

▷ 技術点、価格点とも、ほぼ同じ比重で落札に反映されている。

竣工段階の評価

【傾向】

一般競争入札(通常)、総合評価方式とも、工事成績評定点は上昇傾向だが、総合評価方式のほうが点数、上昇率とも高く、高い水準を維持している。

【考察】

総合評価方式では、品質の高い工事が行われている。

まとめ

総合評価方式は、価格のみ評価する一般競争入札と比べ

- ・ 技術力を持ち合わせた会社との契約
- ・ 質の高い工事目的物の完成

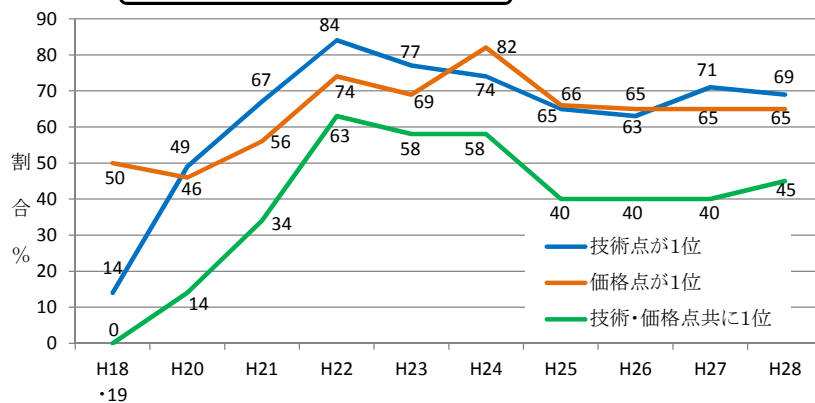
という目的に対して、一定の効果が出ており、工事の品質向上につながっている。

試行件数

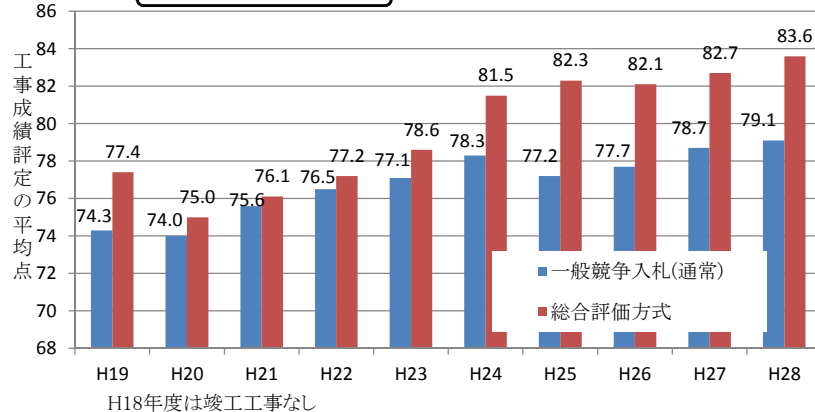
年度	件数
H18	4件
H19	10件
H20	137件
H21	115件
H22	125件
H23	275件
H24	121件
H25	118件
H26	115件
H27	78件
H28	98件
合計	1,196件

※平成23年度の有効件数は271件
 ※平成25年度の有効件数は113件
 ※平成26年度の有効件数は112件(落札候補者が失格となった1件を含む)
 ※平成27年度の有効件数は77件

技術・価格点別落札者の推移



工事成績の推移



■ 平成29年度の主な改正点

- ▷ 雇用状況の評価対象期間を、公告日前日から過去1年間を2年間に【拡充】
- ▷ 同種工事の工事成績評定と優良工事表彰等の対象期間を、過去4ヶ年度から過去5ヶ年度に【拡充】
- ▷ 同種・類似工事の施工実績対象期間を、現年度(公告日前日)及び過去10ヶ年度から現年度(公告日前日)及び過去15ヶ年度に【拡充】
- ▷ 配置予定技術者の評価対象期間に、介護休暇や育児休暇などのワーク・ライフ・バランス等の推進に該当する期間を加算【拡充】
- ▷ 配置予定技術者の同種工事の工事成績について、共同企業体の代表者及び構成員(出資比率20%以上)での竣工実績を評価対象に【拡充】